

第6章 進行管理等

6.1. 評価指標

6.2. モニタリング

6.3. 進行管理

6.4. 計画の改定

第6章 進行管理等

○本計画に掲げた基本目標の達成に向けて、計画（P）、実行（D）、評価（C）、改善（A）による継続的な進行管理を行うとともに、これらを踏まえた計画の改定を行い、施策の持続的な展開を図るものとします。

○本章では、計画の進行管理、計画の改定等に関する次の事項を定めます。

- ・評価指標……………基本目標の達成状況を評価するための指標
- ・モニタリング……………施策パッケージ（各施策）の実施状況のモニタリング
- ・進行管理……………モニタリングや中間評価を踏まえた検証と見直しの考え方
- ・計画の改定……………評価とPDCAサイクルを踏まえた計画の改定

6.1. 評価指標

○基本目標の達成状況を評価するため、以下のとおり評価指標（数値指標）と目標値を定めます。

【評価指標（数値指標）と目標値】

評価指標(数値指標)	基準値	現況値 (2020)	目標値 (2028)
基本目標1 誰もが使いやすい移動サービスの実現			
〈1〉市街化区域内の公共交通利用圏カバー率（％）	92％ 【2016】	92％	92％
〈2〉「やまと軸」上の各駅の1日平均乗車人員数（人）	264,541人 【2014】	206,181人	265,000人
〈3〉路線バス・コミュニティバス・のりあいの1日平均乗車人員数（人）	17,956人 【2018】	13,304人	18,000人
基本目標2 誰もが安心して移動できるまちなかの実現			
〈4〉交通人身事故発生件数（件）	824件 【2019】	696件	554件
基本目標3 誰もが取り組める脱炭素社会への転換			
〈5〉運輸部門におけるCO ₂ 排出削減量（千t-CO ₂ ） （2030年削減目標：△49.0千t-CO ₂ ） 【地球温暖化対策実行計画と共通】	187.22千t-CO ₂ （2019年排出量）	182.8千t-CO ₂ （排出量）	147.13千t-CO ₂ （排出量）
	—	△4.5千t-CO ₂	△40.09千t-CO ₂

数値指標の出典、算出方法等

〈1〉市街化区域内における公共交通利用圏カバー率（大和市立地適正化計画の評価指標と共通）

〔算出方法〕

■公共交通利用圏面積／市街化区域面積＝利用圏カバー率（％）

○公共交通利用圏面積・次の①②の範囲内面積

①鉄道駅を中心とする半径 800m の範囲内

②民間路線バス（運行本数片道 30 本/日以上）の路線）及びコミュニティバス・のりあいのバス停を中心とする半径 300m の範囲内の面積

〔②の算出方法〕

・市街化区域面積・都市計画の情報（「大和市の都市計画」）を出典とする

〔目標値〕

・交通利便性の高い状況を維持していくことを目標とし、2016 年の値を目標値として設定する（立地適正化計画における目標値（2035 年）と同値）

〈2〉「やまと軸」上の各駅の 1 日平均乗車人員（大和市立地適正化計画の評価指標と共通）

〔出典〕

○1 日平均乗車人員

・「神奈川県交通関係資料集」（神奈川県 県土整備局 都市部交通企画課 編）を出典とする

○「やまと軸」上の各駅

・小田急江ノ島線：中央林間駅、南林間駅、鶴間駅、大和駅、桜ヶ丘駅、高座渋谷駅

・相鉄本線：大和駅

・東急田園都市線：中央林間駅

〔目標値〕

・2014 年度の乗車人数を維持していくことを目標とし、同年度の値を目標値として設定する（立地適正化計画における目標値（2035 年）と同値）

〈3〉路線バス・コミュニティバス・のりあいの 1 日平均乗車人員数（人）

〔出典〕

○路線バス……神奈川中央交通株式会社、相鉄バス株式会社からの提供情報に拠る

○大和市コミュニティバス（のろっと・やまとん GO）、地域と市との協働「のりあい」……大和市（街づくり総務課）の情報に拠る

〔目標値〕

・路線バス、コミュニティバス、のりあいの合計乗車人員がピークであった 2018 年度の乗車人員を維持することを目標とし、同年度の値を目標値として設定する

〈4〉交通人身事故発生件数（健康都市やまと総合計画（前期基本計画）の成果を図る指標と共通）

〔出典〕

○神奈川県大和警察署からの提供情報に拠る（大和警察署 HP の「統計」ページ）

〔目標値〕

・2013 年～2019 年の交通事故発生件数の減少数を基に今後の傾向を予測*した値を目標値として設定する

*2013 年から 2019 年までの交通事故発生件数の減少数を各年で平均した値を減少予測件数（-30 件/年）とする

〈5〉運輸部門における CO₂ 排出削減量（千 t-CO₂）

〔出典〕

○「大和市地球温暖化対策実行計画【区域施策編】」（温室効果ガス排出量の削減目標）に基づく、各年度の実績（中間評価等）を出典とする

〔目標値〕

・「大和市地球温暖化対策実行計画【区域施策編】（2022 年度～2030 年度）」*における、運輸部門の温室効果ガス排出量の削減目標（2030 年度）を基に目標値を設定する

*大和市地球温暖化対策実行計画は 2022 年 4 月に改定

第6章 進行管理等

6.2. モニタリング

○施策パッケージに基づく展開施策（各施策）の実施状況についてモニタリング（把握）を行います。このためのモニタリング指標については、別途設定します。

モニタリング指標(案)

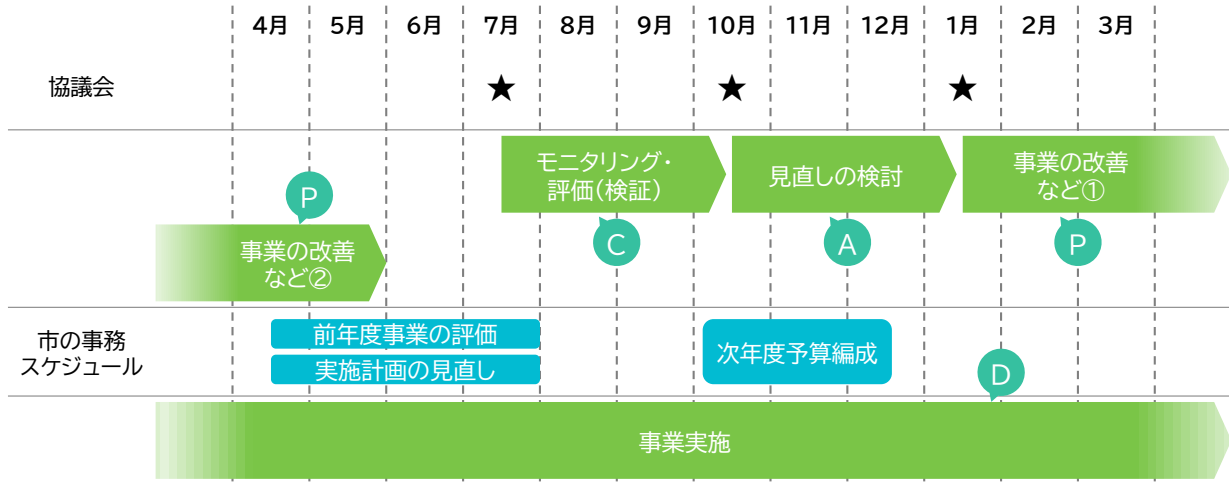
	施策	モニタリング指標
展開施策1 生活を支える交通ネットワークの維持		
1	路線バスネットワークの維持	路線バス利用者数（輸送人員）
2	コミュニティバスの運行	利用者1人当たりコミュニティバス運行経費
3	協働事業「のりあい」の実施	のりあい利用者数
4	タクシーによる個別輸送事業の実施	法人タクシー利用者数（輸送人員）
5	福祉有償運送事業の実施	利用者数（運送回数）、事業者数
6	地域主体の新たな移動手段創出	（取組実績）
展開施策2 使いやすい公共交通サービスの提供		
7	東名大和バス停の活用	空港リムジンバス、高速バス利用者数
8	利用しやすいバス運賃の導入	（検討状況等）
9	利用しやすいタクシー運賃の導入	（検討状況等）
10	バス・タクシーへのバリアフリー対応車両の導入	バリアフリー車両導入数
展開施策3 鉄道駅の利便性向上		
11	駅施設の改善や機能の高度化・多様化	小田急中央林間駅総合改善事業の進捗率
12	駅のバリアフリーの推進	ホームドア整備済駅数
13	駅・駅前広場等の交通結節機能の改善・強化	（検討状況等）
14	案内・誘導サインの分かりやすさの向上	（検討状況等）
15	放置自転車対策の推進	撤去が必要となる違法駐輪の台数*
展開施策4 歩きたくなるまちなか空間の創出		
16	おでかけしたくなる街路空間の整備	まちなかの歩行者通行量（プロムナードにおける一日あたりの通行者数）*
17	歩行空間の整備・改良	歩道改良等の実施距離
18	道路のバリアフリー・ユニバーサルデザインの推進	特定道路の整備率
19	心のバリアフリーの推進	（検討状況等）
展開施策5 交通安全対策の推進		
20	生活道路のゾーン対策の実施	ゾーン指定箇所数
21	交通安全施設の整備	グリーンライン整備距離
22	交通安全啓発活動の実施	交通安全教室等の参加者数
23	まちの安全点検の推進	点検事業実施回数
24	交通事業者との危険箇所等の情報共有	（検討状況等）
25	高齢者の交通安全の推進	運転免許証自主返納件数
展開施策6 快適な自転車利用環境の形成		
26	自転車通行空間の整備・維持	自転車通行ネットワーク路線の整備距離
27	自転車の安全利用の促進	交通安全教室等の参加者数のうち自転車教室等参加者数
28	シェアサイクルの導入推進	シェアサイクル導入台数・サイクルポート設置箇所数
展開施策7 公共交通の利用促進		
29	公共交通の便利な使い方のPR	（情報提供の取組実績）
30	公共交通のお得な運賃制度のPR	（情報提供の取組実績）
31	公共交通を「みんなで守り育てる」意識の醸成	公共交通機関を手軽に利用できると思う市民の割合*
展開施策8 脱炭素に向けた取り組みの推進		
32	公共交通の脱炭素の推進	電動車（次世代自動車）の導入車両数
33	かしこいクルマの使い方の促進	（情報提供の取組実績）

*総合計画の成果を図る指標

6.3. 進行管理

○モニタリング指標・評価指標については、年度ごと（または年ごと）の実績・中間評価を確認し、大和市地域公共交通協議会において事業の効果やあり方の検証を行った上で公表するとともに、各事業の改善など必要な見直しを行います。

【参考:PDCA サイクルの例(一年度)】



6.4. 計画の改定

○毎年度の PDCA サイクルの結果を踏まえ、施策パッケージによる事業推進の効果等を検証した上、基本方針や基本目標の設定等について見直しを行い、計画の改定を行います。

○改定にあたっては、東京都市圏パーソントリップ調査（PT調査）や都市計画基礎調査、国勢調査などの成果を最大限活用するとともに、都市計画マスタープランや立地適正化計画と連動して効果を発現できるように留意します。

【参考:計画改定のスケジュールの例】

